

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 19 日現在

機関番号：34312

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24652023

研究課題名(和文)前近代ヨーロッパにおける美術品輸送の歴史的研究

研究課題名(英文)Historical Survey about Transport of Artworks in Pre-modern Europe

## 研究代表者

吉田 朋子 (YOSHIDA, Tomoko)

京都ノートルダム女子大学・人間文化学部・講師

研究者番号：80609082

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：美術館制度が確立する以前、ヨーロッパにおいて美術品輸送がどのように行われていたのかという問題を実証的に解明するため、18世紀から19世紀初頭について、フランスを中心として調査した。文献資料ならびに素描等の画像資料を収集・検討した。梱包や輸送の実際を詳細に伝える資料は大変少ないが、ローマ・パリ間の王立絵画彫刻アカデミー関連のやりとり、フランス軍による各地での美術品接収に関して、断片的ながらも当時の状況を伝える記述を見出すことができた。

研究成果の概要(英文)：To investigate the development of techniques of transport of artworks in Europe before the modern museum system, archival research was conducted. The main target of the survey is France between the end of the eighteenth and the beginning of the nineteenth century. Documents and visual resources concerning mainly the French Academy in Rome and the transport of artworks to Paris by French Revolutionary Army give fragmentary but precious information about how people packed and transported artworks.

研究分野：美術史

キーワード：王立絵画彫刻アカデミー コレクション 画商 フランス革命 美術館 輸送 梱包

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、美術館学芸員として、他館への作品貸出や海外の美術館から作品を借り受けての展覧会開催を経験してきた。そのなかで、現在の美術館においては、作品の安全性を確保しつつ、確実かつ円滑に輸送するための仕組みが作り上げられていること、欧米・日本の美術館において作品輸送の手続きについて、相当に共通の理解・認識が成立していることを目の当たりにしてきた。これをきっかけとして、近代的な美術館制度や作品保存への意識が確立する以前には、作品輸送はどのように行われていたのかという問題に関心を抱いた。

美術品の輸送については、保存科学的な観点からは安全性を高めることを目的として、様々な研究が重ねられている。また、コレクション形成史、趣味の歴史、絵画市場史、イメージの流通史等の視点からは、作品の移動という現象を俯瞰的にとらえた研究も盛んである。しかし、近代以前の輸送の現場において、梱包や記録が具体的にどのように行われてきたのかを明らかにする研究は見出すことができなかった。

美術作品はイメージという意味ではデータの存在であるとともに、取扱いに注意を要し、それぞれが1点しか存在しない繊細なモノでもあるという側面をもつ。この事実を直視して、保存修復とは異なる観点から歴史的な展開を位置づけることは意義を持つと考えられる。

輸送の実務は、作品本体に比べれば些末な情報であるため、とりたてて記録に残りにくい。先行研究がほとんど存在しない理由の一つはここにあるだろう。しかし、ローマにおかれたフランス王立絵画彫刻アカデミー関連の書簡の一部を予備調査する中で、断片的ながらも輸送に関連する記述を見出すことが出来た。そこで、代表者のこれまでの研究分野でもあり、中央集権的な性格が強いため記録が残りにやすいと思われるフランスを中心として、作品輸送に関して情報を集積し、その歴史的な展開に迫ることを目指したいと考えた。

## 2. 研究の目的

17世紀以降、ヨーロッパではコレクション形成活動の活発化とともに、美術作品の移動が増加する。作品の移動には、梱包、輸送手段、作品の状態記録、安全管理など多くの実務が伴う。近代的な美術館制度や展覧会活動が本格化するとともに、現在にいたるまで、作品の輸送手段は改善され続けているが、それ以前はどのようにして作品は運ばれていたのだろうか。本研究では、17世紀から19世紀初頭にかけて、美術品輸送がいかに行われてきたのかを実務レベルで具体的に明らかにすることを目指した。

調査対象は、イタリア等ヨーロッパ各地 - フランス間を中心とする。特に、ローマに置

かれたフランス王立絵画彫刻アカデミーとパリとの間での作品輸送、フランス革命時におけるヨーロッパ各地からパリへの作品輸送を詳細に調査し、できるだけ実務的な情報を集積し、分析することを目指した。また、関連資料が見出しづらいテーマであるため、17世紀以前や他地域の事例であっても、積極的に参考としつつ、可能な限り具体的に輸送の実態に迫ることを目標とした。

## 3. 研究の方法

### (1) 先行研究の調査

美術品輸送をテーマに据えて歴史的に取組んだ先行研究は見出し難いが、美術品の移動の個別事例に関する研究や、関連をもつ研究の中には、わずかではあっても、輸送の実務的な側面についての情報が含まれるものが存在する。また、美術史学にとどまらず、流通史・交通史など関連諸分野の知見も参照しなければならない。

それぞれの研究書の中に含まれる情報はわずかであるので、多くの研究書の内容をチェックしていく必要がある。しかし、タイトルや目次情報だけでは、目指す情報が含まれているかどうかは判断できないため、実物を手に取って内容を見ていく必要がある。これは国内大学図書館の相互利用や、購入といった手段では不可能である。そのため、充実した蔵書を持つ施設(日本の国立西洋美術館、愛知県アートライブラリ、ロンドンのウォレス・コレクション、ウォーバーグ研究所、フランス国立図書館、ルーヴル美術館資料室等)で、調査を行った。

具体的には、博士論文や、マイナーな画家に関する研究書、発行部数が少なく日本には所蔵のない研究書など、通常閲覧に時間のかかる資料を調査するとともに、関連のありそうな研究書(前近代の旅行や道路、エージェント等、美術史以外の分野も含む)を可能な限り閲覧して、芋づる式に研究書をたどる作業を行った。

### (2) 一次資料の調査

ローマの王立絵画彫刻アカデミーで制作された生徒の模写・模刻や現地でコレクションされた作品はパリに運ばれてきた。輸送に伴う梱包・費用等については、アカデミー院長と王室建造物長官の書簡、アカデミーの出費記録といった一次資料が残っている。また、フランス革命時の美術品輸送についても、作品リストなどの資料を分析し、梱包等に関する情報がないか精査した。

活字化された資料については、フランス国立図書館やパリ国立美術史研究所等のインターネット・サイトも活用したが、そうでないものは、フランス国立古文書館で資料を閲覧し、写真撮影を行った。手書き文書を解読し、作品輸送に関する情報を拾う作業は、現在も継続中である。

### (3) 画像資料の収集

文書だけでは、実態に迫ることが難しいため、画像資料を参照することが望ましいが、梱包・輸送そのものを主題とした美術作品は非常に少ない。ナポレオンのヨーロッパ侵攻の際、従軍画家であったバンジャマン・ツイクスが梱包作業の状況を記録した素描を残しているのが貴重な例である。しかし、画面の一部であれば、絵画を運んでいる人物が描きこまれている作品は存在する。画像データベースやウィット・ライブラリのような画像コレクションを活用して、できるだけ多くの関連作品画像を収集した。

この他に、当初は美術品輸送に実際に携わっている美術館・画商・輸送業者への聞き取り調査も行うことを予定していた。しかしながら、クリスティーズの輸送部門に照会したところ、18世紀以前の輸送に関する資料は所蔵していないということであり、また、上記(1)～(3)についても作業量が膨大になってきたので、文献調査を中心とすることとなった。

### 4. 研究成果

本研究の成果は、以下の(1)～(4)に分類することができる。

#### (1) 先行研究からの情報の収集

画商、コレクション研究が最も重要な分野であるので、これを中心としつつもなるべく広い分野で先行研究を渉猟し、輸送に関する記述を確認する作業を行った。ウォレス・コレクションは作品の移動やコレクション形成に特に関心をもっている施設であるため、参考となる資料を多く所蔵していた。

関連分野があまりにも広く、しかも目的の情報が含まれていたとしてもごくわずかであるため、効率の悪い作業となった。しかし、この過程で、輸送の様子が含まれる作品画像のいくつか(エティエンヌ・ジョラやフランソワ・ビュネル等)に行き当たることができ、当時の大画商ルブランや画家兼画商ウィル等の例を通じて、当時の絵画取引に関する知見を深めることができた。

ルブランは、フランス革命軍によるヨーロッパからの美術品輸送に深く関わっているが、彼がそのような業務を担えた背景には、旧体制時代からオランダ・ベルギーを中心に現地での作品買付を繰り返し、作品輸送の経験を積んでいたことがある。先行研究は輸送の実務には注目していないが、当時最大の画商の活動規模を知ることができた。一方のウィルは、ルブランほど有名ではないが、ドイツ・フランス間を仲介しており、2007年にはコロキウムが開催されるなど近年注目を集めている。特に人的ネットワークについての研究が進んでおり、当時の絵画取引におけるコミュニケーションのあり方を知ることができた。

以上の調査によって、具体例に基づいた状

況認識が得られ、一次資料・絵画資料の解釈と基礎とすることができた。

#### (2) 一次資料(活字化済み)の収集・調査

最も重要な資料は、ローマのフランス・アカデミー院長とパリの王室建造物長官の間で交わされた書簡である。これはギフレらにより活字化されており、フランス国立図書館のサイトからインターネット上で読むことができるため、本研究の中でも最も進めやすい部分であった。18世紀のフランス絵画研究では基本的な資料であるが、これまで作品輸送という観点からは検討されたことはない。しかし、丁寧に検討していくと、かなり具体的な情報が得られることが分かった。素描を入れて運ぶための専用の金属筒状容器、絵を巻く際に絵の具が落ちないための配慮、駅馬車での輸送が無理な作品を海路で運ぶことについての相談、大型絵画の輸送のための木箱製作や運賃などの具体的な記述である。これらの作業は実際には、ローマ現地の職人に依頼されたと思われ、今後、下記(4)の活字化されていない資料のうち、とくに雑多な領収書の内容と照合していきたいと考えている。

さらに、法令、雑誌記事や報告書として、当初から活字印刷物として発表されたものも検討した。網羅的な調査には至らなかったが、参照した中でもっとも詳細に輸送について記述している資料は、『哲学・文学・政治旬報』の記事(1797年第3期)であった。イタリアからの作品輸送について、絵画の巻き方や箱の防水について、詳細に記述されている。美術品略奪に関する先行研究ではすでに文献リストに挙げられている資料ではあるが、今回、輸送技術の発展という観点から位置づけなおすことができた。

#### (3) 画像資料の収集

先行研究で紹介されていた作品を出発点として、画像データベースを活用して作品の輸送・取扱いの様子を含む作品画像の収集につとめた。ウィット・ライブラリやルーヴル美術館資料室などでも調査を行った。画家のアトリエ、作品売り立ての様子を含む作品を中心に検索したが、多くの作品を集めることはできなかった。

しかし、収集した作品画像からは、たとえば、絵画を入れるための箱の形状や、絵の持ち運び方などを確認することができた。また、絵画や鏡のような重いものを運ぶことを生業としていたポルトフェと呼ばれる人々がいたことが確認できた。18世紀の素描作品に描かれることがあり、背中に背負う木枠に作品をしばりつけて近距離輸送に携わっていた様子を確認することができた。ポルトフェについては、フランス国立図書館等で一次資料を探したが、活動の実態に迫るものを入手することはできなかった。

結果的に、ナポレオン軍に同行して記録素描を残したツイクスの作品の貴重さが改めて確認されることとなった。

#### (4) 一次資料(活字化されていないもの)の収集・調査

フランス国立古文書館で、ローマの王立絵画彫刻アカデミーの会計記録(文書番号O-1-1935~1952)、革命時のヨーロッパ各地からの作品輸送に関する記録(文書番号F-17-1275~1279)を中心に閲覧し、関係すると思われるものは写真撮影を行った。結果として、撮影枚数は4000枚以上にのぼった。

資料の保管状況は、冊子形式だけでなく、綴じられていない紙片状の資料が多数はさまれた包み(chemise)による形式も併用されていた。

アカデミーの会計記録はすべて冊子形式であり、読みやすい手書き書体で清書されていた。関係のページを開いて撮影し、とじられていない資料は基本的に1枚ずつ撮影した。初期の会計の記録は細かく、輸送に関連する記述も見出すことができたが、全般的にそれほど具体的な情報は得られなかった。

アカデミー関連資料のうち、綴じられていないものは、水道代や画材代、食事代などの領収書や学生の手当受取書など雑多なものが多い。その中に稀に輸送に関連のあるものが紛れ込んでいるという状況であった。これらは非常に少数ではあるが、ローマから船で荷物を出す際の港チヴィタヴェッキアでの手続きに関すると思われる文書等、興味深いものも含まれていた。

革命時の作品移動に関する資料は、作品リスト(絵画・彫刻・博物学資料・写本・メダルなど)が中心で、比較的読みやすい書体で清書されているが、その中には、梱包に関して注意が払われていたことをうかがわせる書き込みや、職人への工賃と思われるメモ書きも含まれており、丁寧に拾っていくとこれまで注目されていなかった情報を見出せる可能性が高い。また、綴じられていない資料の中には、作品の重さを記録した紙片など、輸送の実際をうかがわせるものも残されていることが発見できた。

以上の成果のうち、最も重要なものは上記(4)一次資料(活字化されていないもの)の収集・調査である。しかし、大量なデータを解読し、その中から、関係部分を拾い出して歴史的な脈に位置づけ、一定の形にまとめて期間内に発表するまでには至らなかった。この作業は今後も継続し、(1)~(3)の成果とも一体化させるようにしたい。

期間中に公表できた成果としては、勤務大学で行った公開研究発表があげられる。専門的な学会ではなかったが、この中では、(2)活字化された一次資料や(3)画像資料から得られた知見を紹介することもできた。専門外の聴衆からも質問を受け、本研究の主題が

一般的にも関心を持たれることが確認できた。

当初の予想以上に、梱包・輸送は記録に残りにくい分野であった。しかし、断片的な情報を拾うことは確かに可能であり、その材料となる一次資料を収集することができた意義は大きい。

今回の調査を通して、フランス革命時にヨーロッパ各地から作品をパリに集積するという史上空前のプロジェクトが可能になったのは、旧体制下で蓄積した経験と人的ネットワークがあったからこそであり、その連続性に注目すべきであるという見通しを得た。今後は、作品輸送について貴重な一次資料をまとめ、論文ないし資料紹介として、発表することを目指す。

また、ヨーロッパではコレクションや画商についての研究が非常に進展している一方で、梱包や輸送は実務性が強いいためか、歴史的な美術史研究の対象とはなりにくいようである。調査を行った文書館や美術館の担当者からも、本研究のようなテーマは珍しいという声を複数いただいた。包装へのこだわりという独特な文化を持つ日本から発信する研究として、美術史の専門家だけではなく広い関心に応えることができるような形式でも成果を公表したい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

吉田朋子「美術品はいかに運ばれたか 18～19世紀のフランスの事例を中心に」  
学内研究会「人間文化学科 文化の航跡研究会」  
会（口頭発表、一般向け、2013年11月7日、  
京都ノートルダム女子大学）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉田 朋子 (YOSHIDA, Tomoko)  
京都ノートルダム女子大学・人間文化学  
部・講師  
研究者番号：80609082

(2) 研究分担者 なし

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者 なし

( )

研究者番号：